

2020 年度助成事業完了報告書

報告日付：2020 年 4 月 7 日

事業 ID：2019515841

事業名：ろう・難聴学生への学習支援

団体名：特定非営利活動法人ろう・難聴中高生の学習支援の会

代表者名：理事長 斉藤みか

TEL：090-8055-1389

事業完了日：2021 年 3 月 31 日

1. 収支報告

助成金額：5,200,000 円

自己負担額：1,317,588 円

事業費総額：6,517,588 円

※詳細は「収支計算書」に記載

2. 事業内容

2-1 事業概要

ろう・難聴の生徒への学習支援を行い（事業1）、進学を促すために当事者によるカウンセリングを行った（事業2）。

2-2 事業1 ろう・難聴学生への学習支援

【学習塾の開講】

ろう・難聴の生徒に対して学習指導を行う学習塾を開講した。ろう当事者講師による手話での指導と、聴者講師による情報保障（手話通訳・パソコン筆記）付きの指導を提供した。科目は英語、数学、国語（現代文・小論文・古文）、の3科目に加えて、AO 推薦対策クラスを設けて、大学受験のための面接対策等にも対応した。

【開講日程】

計画段階では、新宿の会場を使つての開講を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、2020 年度は結果的にすべてオンラインでの開講となった。対面での再開を常に検討しつつ、一方でオンラインでの開講を充実させることも考えた一年であったが、結果的にすべてオンラインでの開講となった。

計画段階では、期間中の金曜日を中心に年間 32 回（16 コマ×32 回、計 512 コマ）の対面での開講を予定していたが、オンラインになったことで会場の都合を気にする必要がなく、スタッフの対応できる日も多くなったため、すべてのクラスを同じ日に開講するのではなく、講師・受講生の都合によって金曜日以外の曜日にも部分的に開講するなど対応した。結果的に、基本としている金曜日に参加ができない生徒にも対応ができ、受験生には金曜日以外に補講も行うことが出来た。

また、会場を借りるために計上していた賃貸費と、講師・通訳者の交通費が不要になったため、それらを主に講師・通訳者謝金にあてて、開講回数を増やした。結果的に、年間で合計 618 コマ（対面時の 39 回相当）の開講となり、予定より 100 コマほど多く開講することになった。各学期の開講日と基本的な時間割は下記の通りである。

1 学期：5 月 22 日（金）～7 月 31 日（金） 毎週金曜日 計 175 コマ

	ろう者講師				聴者講師		
前半	英語 (手話)	国語 (手話)	AO 推薦 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC 筆記付)	英語 (文字チャット)	国語 (手話通訳付)
後半	英語 (手話)	国語 (手話)	AO 推薦 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC 筆記付)	数学 (文字チャット)	国語 (手話通訳付)

※一部他の曜日に補講あり

夏期講習：8 月 11 日～8 月 31 日 期間中、講師と受講生の都合で調整 計 97 コマ

	ろう者講師				聴者講師		
前半	英語 (手話)	国語 (手話)	AO 推薦 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC 筆記付)	英語 (PC 筆記付)	国語 (手話通訳付)
後半	英語 (手話)	国語 (手話)	AO 推薦 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC 筆記付)	数学 (PC 筆記付)	国語 (手話通訳付)

2 学期：9 月 4 日（金）～11 月 13 日（金） 毎週金曜日 計 187 コマ

※3 コマ月曜日に補講、1 コマ木曜日に補講

	ろう者講師				聴者講師		
前半	英語 (手話)	国語 (手話)	AO 推薦 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC 筆記付)	国語 (PC 筆記付)	国語 (手話通訳付)
後半	英語 (手話)	国語 (手話)	AO 推薦 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC 筆記付)	数学 (PC 筆記付)	国語 (手話通訳付)

冬期講習：11月27日（金）～12月18日（金） 毎週金曜日 計72コマ

※3コマ月曜日に補講、他一部他の曜日に補講あり

	ろう者講師				聴者講師		
前半	英語 (手話)	国語 (手話)	英語 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC筆記付)	国語 (PC筆記付)	国語 (手話通訳付)
後半	英語 (手話)	国語 (手話)	英語 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC筆記付)	数学 (PC筆記付)	国語 (手話通訳付)

3学期：1月29日（金）～2月26日（金） 毎週金曜日 計87コマ

※月曜日に3コマ補講、クラスにより3月19日まで開講

	ろう者講師				聴者講師		
前半	英語 (手話)	国語 (手話)	英語 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC筆記付)	英語 (PC筆記付)	国語 (手話通訳付)
後半	英語 (手話)	国語 (手話)	英語 (手話)	数学 (手話)	英語 (PC筆記付)	数学 (PC筆記付)	

【指導の方法】

指導は主に Zoom を用いて行った。一部のクラスは Skype のビデオ通話を用いた。Skype はチャットの履歴が残るという利点があり、Zoom はホワイトボード機能など指導に便利な機能があり、講師が両方を試しながら指導しやすい方法を選んでいった。受講生が希望する場合、Twitter の DM（ダイレクトメッセージ）機能を用いて文字での指導をすることもあった。その場合は、講師に指導用のアカウントを付与した。

手話通訳付きのクラスは、手話通訳者に同じ Zoom に入ってもらっただけなので学期の最初から開講した。文字情報保障付き（パソコン筆記付き）のクラスは、遠隔での文字入力に不安を抱く記者が大半だったため、T-TAC Caption と Zoom の使い方の練習会（無償）を2回行い、体制を整えてから、6月12日以降に開講した。5月22日～6月5日の間、文字情報保障付きクラスの希望者には講師が Skype や Twitter を用いてチャットで指導を行った。6月12日以降は、希望者には T-TAC Caption によるパソコン筆記付き授業を提供した。6月12日以降も文字チャットを希望する生徒には、引き続き講師が直接文字チャットで指導をした。

Zoom での開講は、同じ一つのミーティングを全員が利用し、ブレイクアウトルームを用いて各クラスの指導を行った。クラスごとにルームに講師・受講生・通訳者を振り分けて、複数クラスの指導を同じミーティングで行った。オンラインでの開講に際して、各ツールの使い方や受講の方法については適宜簡単なマニュアルを作成し、受講生・保護者に共有した。操作に不安を感じる生徒には、事前に一緒に操作を試してみる（T-TAC Caption に文字が表示されるか等）機会を設けた。

ろう者講師による手話での指導は、講師・受講生が同じルームに入り、ビデオ通話で指導を行った。Zoom のホワイトボード機能を用いたり、教材をチャットやメールで共有したり、画面共有を用いて講師が教材のデータに書きこみながら説明をするなどした。

スマートフォンで参加している受講生は、画面共有をしてしまうと手話での解説が見えなくなってしまうので、講師が小さなホワイトボードに書き込み、それをカメラに向けるという方法も用いた。

聴者講師による情報保障付きの指導は、手話通訳付きとパソコン筆記付きの指導を用意した。手話通訳付き指導の場合は、講師・受講生・通訳者が同じルームに入り、ビデオ通話で指導を行った。パソコン筆記付きの指導は、講師・受講生・筆記者が同じルームに入り、字幕表示には T-TAC Caption を用いた。筆記者は Zoom で授業の映像・音声を確認しながら、T-TAC Caption に文字入力を行った。受講生には、Zoom の画面と T-TAC Caption 両方を開いてもらい、授業を Zoom で、字幕を T-TAC Caption で見てもらった。タブレットやスマートフォンで参加していて、両方を同時に見ることが難しい受講生には、T-TAC Caption 表示用のタブレットを貸与し、タブレット端末で字幕を見てもらった。指導に際してはろう者講師と同様に、Zoom のホワイトボード機能を使う、教材を事前に送付して共有する、教材を画面共有しながら講師が書き込むなどの方法を用いた。

【参加者】

各学期の参加受講生数は下記の通りである。

1 学期：13 名

夏期講習：17 名

2 学期：15 名

冬期講習：14 名

3 学期：17 名

(通年での実人数 22 名)

事業計画では対象者を 50 名としていたが、全日程がオンラインになってしまったこともあり、想定していたよりも参加者は少なくなった。参加希望者の中には、少数ではあるが家庭環境などの事情でオンラインでの参加はできないという生徒もおり、今年度は指導を提供することができなかった。

一方で、オンラインになったために参加できた遠方の生徒もいた。人数は想定よりも少なくなったが、もともと想定していた対面での指導では参加することができなかった遠方の生徒にも指導を提供できた。

参加した受講生のうち、2020 年度に大学を受験したのは 6 名であった（5 名は高校生、1 名は大学受験を強く志望する社会人）。1 名いた社会人は不合格であったが、他の 5 名は全員大学に合格し、4 月から大学進学を予定している。進学先大学・学部と出身高校一覧は

以下の通りである。

2020 年度 卒業生進学先大学・出身高校一覧

進学先大学・学部	人数	出身高校
淑徳大学・社会福祉学部	2名	横浜市立ろう特別支援学校 千葉県立船橋法典高校
日本社会事業大学・社会福祉学部	1名	都立葛飾ろう学校
文京学院大学・人間学部	1名	秋草学園
和光大学・表現学部	1名	駿台甲府高等学校

【受験生向けページの作成】

学習塾がオンラインでの開講になったこともあり、当法人のホームページにろう・難聴の受験生に役立つ情報のページを作成した (<https://npo-roundjuku.com/%e5%8f%97%e9%a8%93%e7%94%9f%e5%90%91%e3%81%91%e6%83%85%e5%a0%b1/>)。

オンラインでの指導には参加できないという生徒や、毎週塾に参加することは希望しないという生徒にも役立つように、小論文や面接のポイントを手話動画で解説した。

受験指導の経験が豊富な聴者の講師に原稿を作成してもらい、ろう者の講師に手話翻訳および動画出演をしてもらった(図1・図2参照)。ホームページには原稿のPDFファイルも貼りつけ、手話動画と文字テキスト両方を見ることができるようにした(図3参照)。

図1 動画教材「小論文のポイント2」

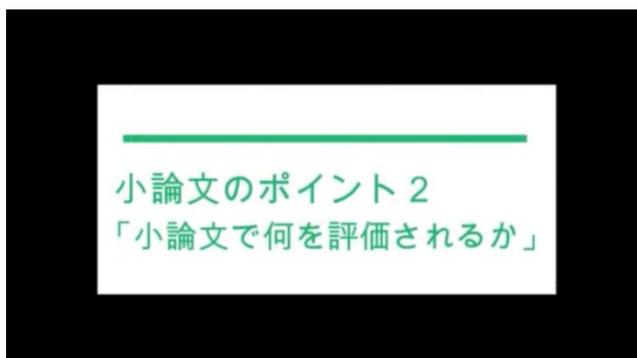


図2 動画教材「小論文のポイント2」



図3 「受験生向け情報」ページの画面

小論文のポイント

小論文のポイント①「小論文の種類」

PDFダウンロード



2-3 事業2 カウンセリングの実施

進学や学習についての悩みを持つろう・難聴の生徒とその保護者に対して、適宜相談対応を行った。相談対応は、社会福祉士の資格を持ち、学習塾の講師も務めるろう当事者の大学院生が担当した。相談対応の実施日・相談の概要は次の通りである。

・8月7日（生徒からの相談）

大学のオープンキャンパスに参加したいが、オンラインでの開催ということで不安がある。Zoomの操作を教えてもらいつつ、入試や大学生活のことなどを相談したい。

・8月12日（保護者からの相談）

視覚と聴覚に障害があるが、学校では今のところ支障なく勉強している。高校生になり大学進学を考えているが、本人に特にやりたいことなどはなく、ただ国立大学に行きたいと言っている。聴覚障害のある人がどのように学んでいるのかわからないので、話を聞いてみたいが、この状況では難しい。いろいろ当事者の話を聞かせてほしい。

・12月5日（生徒からの相談）

受験を予定している前期日程の試験に向けて、勉強方法などについて相談をしたい。

・12月12日（生徒からの相談）

共通テストの結果が悪く、親と学校の先生から受験自体を諦めて専攻科に進学するように言われているが自分は大学に進学したい。どうしたらよいか相談したい。

8月12日の相談は、いろいろな人の話を聞いてみたいということで、社会福祉士の講師の他にも当事者の講師1名と、ろう・難聴の大学生2名（塾の卒業生）、視覚障害のある大学生1名に参加してもらい、Skypeのグループチャットで交流をするという形で対応した。その他の相談は、社会福祉士の講師がZoomのビデオ通話で対応した。

スタッフ（主に理事長）による相談対応は日常的に行い、特に当事者のソーシャルワーカーに担当してもらった方がよいと判断した場合は社会福祉士の講師に相談できる場を設けた。日常的な相談としては、学習について、大学進学後の実習（音楽が要件であること）について、出願の方法についてなど、生徒・保護者からの相談があった。

3. 事業の成果

3-1 目標と達成度

事業計画には下記の目標を定めていた。

- ・約50名を受け入れ、3年生については全員大学・短大・専門学校に入学できることを目標とする
- ・塾の卒業生が将来講師として戻れるように、卒業生に指導の補助などを担ってもらい指導の実習の場を提供する
- ・相談業務が可能な卒業生にカウンセリング実習の場を設ける

このうち、対象者の人数についてはオンラインであったこともあり、想定よりは少ない人数を受け入れることになった。人数の目標は達成できなかったといえる。しかし、参加した3年生は全員大学に合格できたため、この点は目標を達成できたといえる。

二点目については、ろう当事者講師のうち2名は卒業生を起用した。また、相談対応の際にも、大学に通っている塾の卒業生に参加してもらった。そして、塾の卒業生に受験の体験

談を書いてもらい、ホームページに掲載した。全日程オンラインになったことで、指導を直接補助してもらう機会は設けられなかったものの、大学生として事業に携わってもらうことはできた。

三点目については、相談対応のほとんどを、社会福祉士の資格を持つろう当事者の卒業生に担当してもらうことができ、カウンセリング実習の場としても活用できた。

3-2 アンケート結果

各日程が終わる頃に、Google Form でアンケートを実施した。(夏期講習のみ、1 学期・2 学期と日程が近く実施せず)。回答は受講生自身でも保護者でも可能とした。結果は以下の通りである。(回収できたアンケートの全文、個人名のみ「○○」に編集)。

【1 学期】

1. 今学期はオンラインでの開講になりました。オンライン開講の感想を教えてください。
 - ・新宿の塾のように、zoom でもホワイトボードで説明があり、分かりやすかったが、新宿の塾でやるよりも先生方がホワイトボードで説明するのが大変そうだった。また、先生に長い文章を送るのが大変だった。
 - ・通信環境が悪い時、時々止まってしまう不便な点があったが、遠方から参加出来てよかった。
 - ・良かったことは通う時間が不要なこと。落ち着いてできた。
 - ・コロナ感染対策でオンラインにさせていただき、安心して授業を受けることが出来た。困ったことは、タブレット等を扱うことで他の情報にも気が散って集中出来なくなることがあったこと。(ゲームやラインの友達など)

2. 授業の感想を教えてください。
 - ・期末テストに出そうなところを教えていただき、理解できました。
 - ・手話、手話通訳がある授業は小学生ぶりで、分かる喜びが大きかったです。
 - ・説明がとても分かりやすいので、学習が楽しいです。
 - ・丁寧に手話対応してくださり、本当にありがたかったです。

3. 塾・講師への要望があれば教えてください。
 - ・今までと同じようにこれからもよろしくお願い致します。
 - ・授業を教えていただき、ありがとうございました。
 - ・みんなと会えないのは寂しいですが、我慢です。オンラインで助かっています。これからもよろしくお願い致します。
 - ・数学、国語受講に変えて成績が落ちました。隔週での科目変更(3科目対応)などしてくださるとありがたいです。

【2学期】

1. 授業の感想を教えてください。

- ・丁寧に関心強くご指導いただいて感謝している。
- ・情報保証がしっかり付いているので分かりやすく、〇〇先生が分かりやすいと喜んでいきます。勉強の進め方のコツを教えて頂いたり、お悩み相談もしているようで、毎週授業を楽しみにしているのが見ていて伝わります。こちらの塾にお世話になることが出来て、本当に有り難いです。
- ・楽しかった。
- ・国語の長文の読み方を詳しく教えていただけたら、勉強の心構えも教えてくださったりしたので、とても為になりました。
- ・とても分かりやすく、オンラインで、どうかな？と思いましたが、特に不自由に感じる部分はありません。学校でもオンライン授業があるのですが、こちらでは情報保障があるため、聞こえなかったら、聞き逃したらという不安がありません。
- ・まだ数ヶ月しか受けていませんが、楽しく分かりやすく、いつも時間があっという間に終わります。これからの授業がまた楽しみになります。
- ・学校で授業を受けたときと比べて塾の方がわからないことがあったらすぐ聞いて細かく説明して下さるところが一番分かりやすかったです。

2. 塾・講師への要望があれば教えてください。

- ・特にない。
- ・丁寧にご連絡をいただけてありがたい。
- ・親としては帰宅時間が遅くなる心配をしなくてよいのは助かる。しかし、娘は先生と直接会いたい気持ちも大きい。そのため、コロナウイルス感染拡大にもよるが、例えば長期休みにでも、リアルに対面出来る機会を作っていただけるといいなと思っている。
- ・これからも大学受験まで〇〇先生に教えていただきたいです。

【冬期講習】

1. 授業の感想を教えてください。

- ・楽しくいろんなことを学べたと思います！
- ・2学期に引き続き、〇〇先生には本当に良い授業をしていただきました。
- ・将来について、相談に乗っていただいたりしたので、だんだんと自分のやりたいことがわかってきた気がします。これからもよろしくお願い致します。
- ・初めて英語の授業を受けてみたのですがとても分かりやすく楽しかったです。特に〇〇先生が一つ一つ丁寧に教えてくれたので分かりやすかったです。
- ・満足です。

・わかりやすい

2. 塾・講師への要望があれば教えてください。

・特にありません。

・いつもお世話になりまして、ありがとうございます。

・〇〇先生の授業はわかりやすく、色々と相談にも乗っていただけるので本当にありがたいです。これからもよろしくお願いします。

・特になし

・今後は、zoom で受講します。

【3学期】

1. 授業の感想を教えてください。

・しっかり情報を得ながら分からないところをしっかりと聞いて分かりやすく解説してもらえてよかった

・分からないところを丁寧にわかりやすく説明してくれるので安心して授業を受けられます。

・分かりやすく楽しかったです。

・特にありません。楽しく受けられました。

・毎週〇〇先生に、数学の問題などの他、論文についてもご指導いただけてありがたかったです。ありがとうございました。

・学んだ内容がわかるようになり嬉しい

・(〇〇先生) わからない問題をわかりやすく教えてくれる。

・(〇〇先生) ASL での会話が楽しく、英語の文法も丁寧に教えてくれる。

・(〇〇先生) 共通テストの問題の解き方のポイントを丁寧に教えてくれた。

・とてもわかりやすく、基本からとても丁寧に一つ一つ教えていただいてとても助かっています。

・おかげで今回の学年末も納得のいく点が取れました。

・勉強をわかりやすく教えて頂けたのはもちろん、お悩み相談や様々なアドバイスも頂いたようで、娘は〇〇先生をとても信頼していたようです。

・文字による情報保障も本当にありがたかったです。そのためのタブレットもお貸しいたゞき、至れり尽くせりでした。

・話しやすくやりやすかった

・解りやすい解説と聞いてます。ありがとうございます。

2. 塾・講師への要望があれば教えてください。

・特にありません。

- ・〇〇先生にずっと継続して教えていただきたいです。
- ・色々な先生と勉強してみたい
- ・なし
- ・特に大丈夫です。
- ・来年度も是非〇〇先生にお世話になれたらと思っておりますが、最後の授業の時も、娘はその辺りを確認し損ねたそうです。来年度も引き続き安藤先生クラスはあるのでしょうか？

3-3 事業の意義

年度のはじめは高校も休校になっていたため、高校生は例年以上に不安を抱えていた。5月という比較的早い段階でオンラインでの指導を整備し、提供できたことには大きな意義があったと考える。実際に、保護者からの感謝の声も多かった。早期にオンラインに舵を切ったことから、2020年5月26日『朝日新聞』朝刊、「障害ある子もオンライン授業」という記事でも取り組みについて取り上げてもらうことができた。

また、学校が再開してからも、休校だった分を取り戻すために授業の進度がいつもよりも速く、ついていけないという声もあり、そうした生徒には塾で理解できるまで指導をし、学校の補講のような役割を果たしたと考えている。特にインテグレーションしている生徒は、日頃から学校での配慮が極めて少なく、その上授業の進度が速いということで、不安を抱えている生徒が多かった。

また、受験生はとりわけ不安が大きく、学習指導だけでなく相談対応もコンスタントに行った。受験生には、指導の機会を多くできるよう調整し、受験の日程に合わせて集中的な指導も行った。高校生の受験生が全員大学に合格できたことは成果であったと考える。親と学校の先生から進学を諦めて専攻科に進むよう言われ、「受験したいなら自分のお小遣いで勝手に受けなさい」と言われたという生徒も、相談対応と学習指導の結果、志望の大学に後期日程で合格することができた。

そして、オンラインになったことで、遠方からの参加も受け入れることができた。埼玉・千葉・神奈川からの参加者は対面時もないわけではなかったが、オンラインになったことで参加が容易になった。例えば対面時には遠方のため後半のみの参加、というような形だった生徒も、前半から参加することができた。また、山梨県や近畿地方からの参加者もあり、対面時よりも幅広く受け入れることができた。高校進学後は学校から塾が遠くなるので参加できないと言っていた生徒も、オンラインになったことで毎週参加することができた。

4 今後の課題

最も大きな課題は、より多くのろう・難聴の生徒に当団体の活動を知ってもらい、参加してもらうことである。今年度は全面オンラインになったこともあり、参加者を大きく増やすことができなかった。多くの生徒に参加してほしいと願う一方で、オンラインでは一度に大人数の指導は困難であるという声も講師から寄せられており、レベルや言語状況が異なる

生徒たちを同時に指導することの難しさも課題の一つである。

距離の問題や新型コロナウイルス感染の懸念などから引き続きオンラインでの開講を望む声も多い。今年度オンラインで参加した受講生は、来年度の開講について対面がよいか、オンラインがよいか調査したところ、全員がオンラインを希望すると回答している。一方で、少数ではあるが、対面での参加を希望して今年度は塾に参加することができなかった生徒もあり、対面が再開したら参加するという声もあるため、状況を見ながら対面指導の再開も検討する必要がある。今年度参加した受講生から引き続きオンラインでの開講を望む声が多いことに加えて、オンラインの指導は遠方の生徒の指導にも対応ができるという利点がある。今年度も、山梨県や近畿地方など対面での開講では通うことができなかった生徒を受け入れることができた。今年度確立したオンライン指導のノウハウを活かして、遠方の生徒にもアウトリーチしていきたい。

また、今年度は高校生の指導が中心であったが、来年度に向けて中学生からの問い合わせも複数寄せられている。将来的に大学受験を検討しているという中学生からの問い合わせである。こうした生徒たちにも早期から学習指導を提供したいが、一度に指導できる人数に限りがあため、指導方法の工夫が必要である。オンラインでの指導の場合はもちろん、対面指導を再開した際にも引き続き新型コロナウイルス感染対策は必要になるので、一度に大人数が集まるといことは難しい。幅広い生徒に対応し、一人でも多くのろう・難聴の生徒に効率よく指導を提供することが今後の課題である。

また、意欲があり、積極的に学習塾に問い合わせをしてくる生徒以外の、受験を選択肢に入れることができていない生徒へのアウトリーチも今後の課題である。卒業生の体験談や、手話の動画教材を充実させ、大学受験の心理的ハードルを下げることに努めたい。